

ご挨拶

日本研究皮膚科学会第30回学術大会は、昨年に引き続き日本皮膚科学会総会とジョイントした **Dermatology Week** の一環として、横浜にて開催されることになりました。本大会も30回を数え、本学会は日本の皮膚科学研究の発展に多大な貢献を果たしてきたと思います。今後、日本皮膚科学会が、皮膚科専門医の教育とレベルの維持に重心を移すに応じ、研究皮膚科学会もそれ相応の変化が求められ、またその学会としての果たす役割は、益々重くなると期待されます。そのような時期に本学会大会の会頭を務めさせていただくことは、たいへん光栄なことと存じます。

本大会初日、4月20日(水)は、会場がインターコンチネンタル ホテル (パシフィコ横浜の隣)、その後の21日(木)、22日(金)と、会場がパシフィコ横浜と移動するため、参加者には何かと混乱を招くかと心配しております。他学会の大会が、20日までパシフィコ横浜にて開催されるため、このような変則的な会場運営となったことを、お詫び申し上げます。

学会日程の構成や学会運営などは、ほぼ前回は踏襲したものになります。

若い研究者のための **Resident Forum** も前回に引き続き開催します。新進気鋭の若い教授との懇談を通して、一人でもよいから研究にのめり込む人が出ることを期待して、この **Forum** を企画しました。できるだけ多くの方の御参加をお待ちしています。

谷奥喜平記念講演には、米国コロラド大学の **Richard Spritz** 博士をお招きいたします。博士は、まだら症、チェダイアック東症候群、ヘルマンスキーパドラック症候群などの病因遺伝子を数多く発見した研究者として知られています。本大会では、現在研究中の汎発型白斑の遺伝子について講演されます。聴衆の知的好奇心をおおいにかき立てるものと期待しております。

臨床医が、継続的に研究を行うことは、本当にたいへんです。本大会に御参加いただき、研究の仲間(ライバル)を見つけ、あるいはその方々と交換していただき、今後の研究の活力としていただきたいと思います。また、本大会が、これから研究を始めたいという若い皮膚科医の刺激の場となることを願っております。

日本研究皮膚科学会第30回年次学術大会／総会

会頭 富田 靖

(名古屋大学大学院医学系研究科 皮膚病態鶴学分野)